

平成28年度 自己評価書

鈴鹿市立愛宕小学校		◇成果 ◆課題 ○行動計画 ■評価指標					H29.3.1		
評価項目	具体的な取り組み計画	評価指標	1学期の成果・課題	2学期以降の改善点	成果・課題	学校関係者評価	今後の改善点	担当	
学力保障	授業改革 授業研究	<ul style="list-style-type: none"> ■児童ア「友だちの前で自分の考えや意見を発表している」80%以上 ■児童ア「話をしている人の方をしっかりと見て、反応しながら最後まで集中して聞いている」80%以上 ○来年度は算数科を中心にして、自ら考え自ら学ぼうとする力、子どもに身に付けさせたい力(話す力、説明する力、書く力など)を育てていく。 ○学習の定着率をあげるため、授業での振り返り活動を充実させていく。 ○「子どもにつけたい力」を共有し、向上させるための工夫・アイデアを提案する授業研究にしている。 ○子どもを学年、学校の目で見守り、指導していく。計画的な交換授業や合同授業を実施 ○OJT研修を充実させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> □自主公開授業において、参観者から評価をもらう。 <評価指標> □児童アンケート「友だちの前で自分の考えや意見を発表している」80%以上 □児童アンケート「話をしている人の方をしっかりと見て、反応しながら最後まで集中して聞いている」80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> □児童ア「友だちの前で自分の考えや意見を発表している」64.9% □児童ア「話をしている人の方をしっかりと見て、反応しながら最後まで集中して聞いている」76.4% ◇「話す」ための授業は意識している。 ◆自信のない子は発表していてもできていない。言いたいことをどう話していいかわからない。 ◆時間に追われると教師がしゃべってしまふ。 ◆必要な指導が子どもによって様々である。 ◆子どもは、「ちゃんとしゃべらないと…」という意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表していても、自信のない子に自信をつけさせる。 ○発表するクラスの雰囲気作りが必要。 ○授業の課題作りと流れの確立。 ○分かる子だけに任せてはしまわない。(待つことが大切) ○子どもの意見をつなげる授業の工夫。 ■ねらい(課題)の提示と振り返り活動の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童ア「友だちの前で自分の考えや意見を発表している」66.3% □児童ア「話をしている人の方をしっかりと見て、反応しながら最後まで集中して聞いている」76.6% ○授業の「ねらい」を提示することは定着してきた。授業の導入や授業の流れについて定着に意識も出てきた。 ●授業の「まとめ・振り返り」は時間内にできていない。 ○導入を工夫することにより、興味・関心をもって子ども達が授業に取り組みるようになってきた。 ○事後研の発言が活発になり、話し合いが充実してきた。 ○公開授業後、参観者より感想(ミニコメント)をすぐに書き感想をもらうことができた。回収率もよかった。 		<ul style="list-style-type: none"> ○話す子どもも「言葉の不足」があるので、話す練習を各教科にわたって行っていく。 ○来年度も公開研究授業は各学年1本行う。2学期に集中したので分散させる。 ○「板書計画」も含め、1時間の中での流れを職員全員で確立していく。 ○授業の流れを全職員で徹底する。算数科の振り返りの時間は練習問題でその時間の理解度を検証する。 □児童アンケート「友だちの前で自分の考えや意見を発表している」「話をしている人の方をしっかりと見て、反応しながら最後まで集中して聞いている」80%以上をめざしていく。 	
	基礎基本 の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の「ねらい」と「振り返り」を明確にする。 ○「朝学の時間」の使い方を検討する。(内容・使い方の工夫) ○学校全体の取組として漢字・計算練習を徹底する。(プリント教材の充実・活用) ○少人数学習、補充学習を計画的に取り入れる。(夕方教室・月曜6限の活用) ○「ほめること」は全ての学級で基本に据えていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆振り返りの時間なかなかとれない。 ◇朝学習は、それぞれのクラスで必要な内容を考え、取り組めている。 ◆書くことに時間がかかる子がいる。 ◇夏休みのぐんぐん学習はどの学年も実施できた。夕方学習は、クラスで残ってやっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の流れが、テンポよくうまいかない。基礎的な力が不足している。 ○子どもにも時間を意識させる。 ○10マス、100マスにも時間を活用してやっていきたい。 ○書くスピードを鍛えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇授業の基本的な流れが出来てきた。(めあて・課題や学び合う活動の扱いについて) ◆1時間の授業の中でまとめや振り返りの時間が取れないことが多い。 ◇朝の学習の時間があることで1時間目の学習にスムーズに入ることができる。 ◇書くことを習慣化していくことで書くスピードは上がってきている。(日々の授業でのノートまとめや朝学の視写) 		<ul style="list-style-type: none"> ○朝学をさらに活用していくと共に、家庭学習において基礎学力を定着させていきたい。そのために連絡帳の確認など保護者に呼びかけていく。 	
	少人数指導	<ul style="list-style-type: none"> ○非常勤講師と連絡を密にする。 ○算数科の少人数授業の推進。 ○少人数教室の環境整備(机・いすなど)。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆意識して連絡は取ろうとしている時間が少ない。 ◇T.Tの入れ代わりなどもしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■少人数・習熟度の授業を取り組む。 ■T.Tの授業方法の研究を継続する。 ○クラスの中で2つに分けていく方法を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年の実態や学習に応じて少人数指導を行うことができた。(1・2年習熟度に分けて実施。3・4年1クラスを半分の人数に機械的に分けて実施。5・6年その時間に応じて1クラスを機械的に分けたり、T.Tの授業をしたりしながら実施。) ○習熟度別授業後、1年生では、引き算の問題で1回目10点、20点だった子が2回目には94点、98点取ることができた。 		<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとのTTの扱いなどをさらにはっきりとさせ、次年度へと引き継げるようにしていく。 ○担任により授業形態の違いもあるので、全員が意識して取り組めるよう今後も研修を深めていく。 	
	家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ○学力差が大きくなっており、そういった子は家庭学習も定着していないことが多い。→■家庭学習の提出率を10割 ○家庭学習の内容を学校である程度統一する。(保護者がわかりやすい。) ○自主学習の取り組みに関して、今後検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童アンケート「宿題や家での勉強に、自分から進んで取り組んでいる。」「はい」53.7% □児童ア「家で勉強する時間は、1日どのくらいですか。」低学年30分、中学年45分、高学年60分以上80%以上(低89.4%中82.6%高75.8%) ◆高学年では、塾の割合が高くなり、ここでは反映されない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の楽しさや必要性を伝えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童ア「宿題や家での勉強に、自分から進んで取り組んでいる。」「はい」45.0% □児童ア「家で勉強する時間は、1日どのくらいですか。」低学年30分、中学年45分、高学年60分以上80%以上(低77.8%中不明高45.6%) ◇◆宿題の提出率は9割ぐらいたが算数の提出率が低い。 ◆自ら進んで家庭学習に取り組む力に課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 力がついている児童は自力で家庭学習ができるが、家庭支援が必要な児童には、児童自身の気持ちを前向きにする励ましが必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ○宿題を忘れて家できなかつたりした分は学校でまかせていくようにすることで学習の理解度を上げ、家庭学習に取り組みやすいようにしていく。 ○特に高学年のメディアの時間を減らすよう、家庭に呼びかけていく。 	研修	
	読書活動	<ul style="list-style-type: none"> ○教師読み聞かせを今後も続けていく。 ○本の内容も考えさせ、色々な種類、長文にも取り組ませたい。 ○図書館まつりを年2回実施(前期・後期) ■貸し出し冊数50冊以上(低学年) 理由:低学年にとっては目標となる数字がはつきりしている方がよい。発達段階としてたくさんの本に触れ親しむことが必要だと考える。 ○高学年は年度初めに担任から、どんな種類のどんな内容の本を読んでほしいかを伝え、各自目標冊数を決めさせる。参考程度の目安となる冊数を提示してもよい 	<ul style="list-style-type: none"> □(改)図書室の本貸出は、低学年は、一人当たり年間50冊以上。中高学年は、各自の目標を設定。(1学期14.9冊/人) 	<ul style="list-style-type: none"> ◇自分の好きな本を自分のペースで読んでいく。 ◇家から持ってきた好きな本を読んでいる子も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○あまり読書していない子に声をかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■1人当たりの貸出数25冊(12月末) ◇図書室の本だけでなく学級文庫や家から持って来た本を読んでいる子もいる。貸し出し冊数が減っていても読書量が増えている子もいる。 ○図書館まつりを2回実施した。 ○教師の読み聞かせが3回できた。 ○ボランティアさんの読み聞かせもしてもらった。 		<ul style="list-style-type: none"> ○読書量が少ない子には、担任等から声をかけていく。 ○親子読書を推進していく。 	
	キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育の目標を設定し、年間計画を整理・見直しを行う。 ○キャリア教育の視点を持って授業や活動を進めていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ◇それぞれの学年で取り組んでいる。 ◆行事に追われてしまっているところがある。 		<ul style="list-style-type: none"> ○生活や総合の時間にたくさんの人と関わる機会を持たせることができた。 □行事に終われることがあったので、的を絞り、子どもたちが目的意識をもって、学びにつなげられるようにする。 □あいさつや言葉づかいに関して、あまり向上がみられなかった。 		<ul style="list-style-type: none"> ○行事を精査する。 ○評価を数値化できる方法がないか探る。 	
	環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ○環境を大切にしている取り組みとして、給食残量無し・消灯・節水に引き続き取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> □水・電気使用量、昨年比-5%~0% 	<ul style="list-style-type: none"> ◆意識して取り組んでいるが、もう少し改善できる。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆◇電気使用量は昨年度より3%増、水道使用料は昨年度より2割減(10月時点) 		<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き状況を見ながら適切に判断し、使用していく。 	
	体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ①児童に外遊びを勧め、教師も一緒に遊ぶ機会を増やす。 ②体育委員会主催の「あたごアスレチック」を年2回程度実施する。 ③社会体育指導者と連携し、スポーツ教室を実施する。 ④体育の授業で「めあて」を明確にし、目的意識を持った授業を進め、振り返り活動も充分に行う。 ⑤各学年の系統性を配慮した単元授業構成を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童ア「運動が好き」90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> □児童ア「運動が好き」86.5% ◇あたごアスレチックではいきいきと体を動かす姿があった。 		<ul style="list-style-type: none"> □児童ア「運動が好き」86.1%以上 ◇愛宕アスレチックを年2回実施できた。 ◇体育委員の活動を通して外遊び啓発ポスターを作成した。 ◇全国体力、運動能力、運動習慣等調査では、男女共に全国平均、三重県平均を上回った。 		<ul style="list-style-type: none"> ○外遊びや体育が楽しいと思える取り組みの検討。 	体育

評価項目	具体的な取り組み計画	評価指標	1学期の成果・課題	2学期以降の改善点	成果・課題	学校関係者評価	今後の改善点	担当
生徒指導	基本的な生活習慣	①時間で行動することを意識させる。 ②スリッパについては業間・昼休みの終わりに見回る。 ③教師が手本となり、積極的にあいさつを行う。(追加) ④委員会活動でノーチャイムデー、あいさつ、スリッパ、ろうか走りなどに取り組む。	□「進んであいさつをしている」児童90%以上保護者・地域85%以上	□「進んであいさつをしている」児童82.2%保護者76.9% 地域86.7% ◇昨年していなかった子ができているなど、昨年よりはよくしている。 ◆高学年はこちらからすれば返してくれるなど、学年によって差がある。	○子どもだけでなく、周りからあいさつする地域づくりが必要である。 ○あいさつをする場面づくりをするためにも、地域との関わりを多くする。 ■土曜授業でのノーチャイムデー実施。	□「進んであいさつをしている」児童82.0% 保護者78.0% 地域77.8% ◇生活委員会の活動を通してスリッパはそろってきている。 ◆あいさつ、廊下走りなど慣れによる意識の低下が見られる。 ◇2月に毎週水曜日ノーチャイムデーを実施し、時間を意識することができた。	あいさつができない現状がある。子どもだけでなく、保護者、大人、教師全員で積極的に声をかけていけば、子どもも変化していくと思われる。	○ノーチャイムデーを適宜実施していく。 ○あいさつや廊下走りに対して啓発するポスターを掲示し、各教室での指導をしていく。
	いじめ防止	①いじめ防止連絡会議の充実を図る。(2回) ②学年間で情報を密に協議し、小さいことでも早い対応していく。 ③何でも言える学級作りに取り組んでいく。 ④道徳教育の充実を図り、心の教育に全職員で取り組む。 ⑤児童個々の悩みや不安を見抜き、学年で話し合いを密にする。 ⑥組織的に運営していく。 ⑦児童会の活動を充実を図る。	□児童ア「いじめを見たり、聞いたりしたときにやめるように言ったり誰かに伝えたりすることができる」90%以上	□児童ア「いじめを見たり、聞いたりしたときにやめるように言ったり誰かに伝えたりすることができる」83.2% ◆「いじめはダメ」という姿勢で取組を続けていく。	○アンケートに書いた子は、観察をしっかりとする。	□児童ア「いじめを見たり、聞いたりしたときにやめるように言ったり誰かに伝えたりすることができる」86.1% ◇いじめの認知、発覚からの組織的な取り組みができた。 ◆道徳教育が徹底できていなかった。 ◇「きいてポスト」を設置した。	○道徳教育を徹底し心の育成に取り組む。 ○「きいてポスト」を設置し、安心して悩みを打ち明けるツールとして活用する。	
	学校事故防止	①委員会活動を通して休み時間に廊下を見回る。 ②月に1回程度、「廊下見守り週間」を設定し、教師が休み時間に交代で廊下に立つ。 ③廊下走りの危険性を児童に周知し、20分休みは外遊びをするよう声かけする。			■2学期に、月に1回程度、「廊下見守り週間」を設定し、教師が休み時間に交代で廊下に立つことを検討する。	◆廊下見守り週間の実施検討	○掲示物の工夫をする。	
	健康教育	①年3回のノーメディア週間を行う。(今年度同様) ②手洗いうがいを意識付ける働きかけを、委員会活動を通して行う。(追加)	□児童ア「メディア利用3時間以上」を12%以下。	□児童ア「メディア利用3時間以上」17.3% ◆高学年で取組を徹底する必要がある。	○家庭にも協力をお願いする。	□児童ア「メディア利用3時間以上」11.3% ◆ノーメディアへの意識の低下	○ノーメディアの取り組みの意義、目的等を学年通信で周知を図る。	
	食育	①年間計画で年に2～3回(1学期1回、2・3学期1～2回)の食育の授業を行う。 ②年間計画に残量調査を設定し、年間通じての調査を行う。 ■おかずの残量なしのクラス平均13クラス以上(今年度と同様)	□おかずの残量なしのクラス数平均13クラス以上	◆6年生の食べる量が少ない。	○家庭との連携が必要である。	◇食育を年2回行うことができた。 ◇2学期残量なしが16クラスが2回あった。 ◇児童、保護者向け通信を月1回発行した。		
	学校美化	①掃除前に役割分担、目標をしっかりと示す。 ②掃除の内容や、早く終わった時に何をするのかを具体的に示す。 ③掃除後に反省活動を行う。また、整備委員が掃除の成果をチェックする活動に取り組む。 ■掃除カードを作成し、そこに掃除内容を明記し、掃除後に振り返りを行う。	□児童ア「学校をすみずみまできれいにそうじしている」95%以上	□児童ア「学校をすみずみまできれいにそうじしている」88.7% ◆低学年は掃除の仕方が分からない児童がいるため、指導する必要がある。	○掃除点検カードの作成。	□児童ア「学校をすみずみまできれいにそうじしている」86.5% ◇頑張っている子が増えてきている。 ◆意識の低い子どもが一部見られる。	○声かけを徹底する。	
	校外生活	①継続して各種教室を開催する。 ・連れ去り防止教室1・4年、非行防止教室2年、万引き防止教室3年・インターネット・携帯電話の正しい使い方教室5年・薬害防止教室6年 ②2年生と5年生は乗り方指導、他学年は危険予測学習を行う。(ヘルメット等)	□児童アンケート「ヘルメットを着用している」100%	□児童ア「ヘルメットを着用している」91.1% 保護者ア96.5% 地域80% ◆交通安全教室において、2年生は知識はついたが、バタバタと終わってしまった。	○地域や社会体育にも協力を要請する必要がある。	□児童ア「ヘルメットを着用している」90.2% 保護者ア94.8% 地域83.3% ◆ヘルメット未着用のため、救急車に運ばれる事例があった。	○通信等で保護者への協力を求める。	

評価項目	具体的な取り組み計画	評価指標	1学期の成果・課題	2学期以降の改善点	成果・課題	学校関係者評価	今後の改善点	担当	
人権教育	<p>○自尊感情を高めるために、 ①子どもの活躍できる場を作っていく。(子ども主体の行事、授業)</p> <p>②いろんな場でほめる。(子ども同士でほめ合う、教師がほめる、当たり前のことほめる)</p> <p>○子ども同士をつなぐ仲間作りをするために ③異学年の活動を続けていく。 遊びだけでなく、子ども同士が関わる活動をする。 遊びも子ども同士がつながれる遊びを意図的に行う。 ④学期はじめに「にこにこノート」をするなど、全校で取り組む。</p> <p>○思いやりの心を育てるために ⑤道徳の授業・・・冊子を使って学年で同じ題材で授業をする。</p> <p>⑥友達を呼び捨てにしない。相手を傷つける言動を許さない。 ・いじめや差別を見逃さないで、その都度指導していく。</p>	<p>□児童アンケート「いじめや差別に気づき行動できた」で、「はい」の割合60%以上</p> <p>□保護者ア「人に優しく温かい気持ちで接している」95%以上</p>	<p>□児童ア「いじめや差別に気づき行動できた」で、「はい」の割合51.4%</p> <p>□保護者ア「人に優しく温かい気持ちで接している」93.1%</p> <p>◇道徳教材の活用をした。1年9h・2年5h・3年7h・4年8h・5年7h・6年6h</p> <p>◇保護者への啓発だよりを発行した。</p>	<p>○学年、学年部で意識的に子ども同士をつなぐ取り組みをし、その都度振り返りをして、次にどうしていくかを考えながら進めていく。(運動会、音楽会、学校行事など)</p> <p>○引き続き道徳の授業を計画的に行う。</p> <p>○2学期以降も、保護者向けの啓発を行っていく。</p>	<p>□児童ア「いじめや差別に気づき行動できた」で、「はい」の割合50.4%</p> <p>□保護者ア「人に優しく温かい気持ちで接している」93.1%</p> <p>◇道徳教材の活用をした。1年14h・2年8h・3年8h・4年8h・5年8h・6年13h</p> <p>◇学期に一回ずつ、学年部ごとの保護者向けのたよりを発行することができた。</p> <p>◇全校のあらゆる場所に人権の詩を掲示するなど、共通理解のもとで実践してることができた。</p> <p>◇教職員の意識を高め合うために、毎月「学級づくりのアイデア」を出し合って、実践してきた。</p> <p>◇にこにこノートの取り組みを通して、友だちからほめてもらう経験を積むことができた。</p> <p>◇話し合い活動など、学習の中でも子ども同士をつなげる取り組みを行うことで深めていくことができた。</p> <p>◇なかよし班活動では、高学年が中心になって遊びを考えるなどして、子ども同士がつながる活動を展開することができた。</p> <p>◆いじめがあっても、周囲に伝えられない子がいる。</p> <p>◆授業中は気を付けていても、日常生活において友だちを呼び捨てにしていることがある。</p>	<p>○仲の良い関係でも「さん」づけで呼ぶのか？一相手を尊重する気持ちを大切にしたい。</p> <p>○自分の事で精一杯で、人のことまで気がいかないのが実情。グループで話し合いをしてもグループでまとめた意見が言えない。</p>	<p>○にこにこノートの取り組みは、個別に扱うだけではなく、全体の場にも広げていけるような機会を意識的につくっていく必要がある。</p> <p>○なかよし班活動の中で、他学年の子どもたち同士をどうつないでいくかが課題である(例えば、6年生をサポート役にして、遊びの提案を各学年に委ねるなど)。子どもたち主体の活動を増やしなが、人への思いやりの心が育つように見守っていく必要がある。</p> <p>○何かあったときだけではなく、時間を確保して学年に応じた指導をくり返しなが、いじめは絶対に許されない行為だという意識を育てていく。</p> <p>○引き続き、掲示板を利用するなどして、言葉の大切さを様々な場面で伝えていく必要がある。</p> <p>○道徳の教材を通して、自尊感情を高められるような実践をねばり強く取り組む必要がある。</p> <p>○思いやりを育てる、子ども同士をつなげる取り組みを、全職員で意識して引き続き実践していく。</p> <p>○子ども同士の呼び捨てを見かけたら、根気よく声をかけ続けていく。</p>	人権	
	特別支援教育	<p>○指導計画を基にしたケース会議を行う。(少なくとも、学年担任、コーディネーターが参加する。)</p> <p>■毎学期、指導計画を立て、見直しをする。(1学期の計画見直しと2学期の計画作成は夏休みでも可。)</p> <p>○特別支援教育の全体研修を行う。 ・スクールカウンセラーによる講座、ユニバーサルデザインについての勉強会など。 ・年度初めに年間計画を立てる。</p>		◆情報共有する場がなかった。	<p>○学年部の中で連絡を密にしていく。</p> <p>○スクールカウンセラーによる講座や学集会を考える。</p>	<p>◆学年部の中での連絡を密にする時間の確保が難しい。</p> <p>◆どこまでの情報を共有するかがはっきりしなかった。</p> <p>◆タイムリーな学習会を組むための情報を集められなかった。</p>		○学年部としての時間を確保する。	
	多文化共生教育	<p>○伊勢志摩サミットにちなんだ掲示</p> <p>○多文化共生集会以「世界のこにちは」を歌おう。</p> <p>○10カ国のこにちはを表示する。</p>		◇伊勢志摩サミット		<p>□外国籍児童に対して通訳を入れた授業、取り出し授業などで日本語の理解につながる事ができた。</p> <p>□多文化共生集會を行い全校で世界のクイズをしなが、鈴鹿市の現状を知ることができた。ALT(5人)ポルトガル通訳を招き外国の遊びを教えてもらった。</p> <p>◆学習が難しくなってきたので学力の差が出てきた。</p>		<p>○多文化共生集會を持ち、子どもたちに多文化の理解を深めていく。</p> <p>○ALTなどを講師として招く。</p> <p>○日本に住んでいる外国の方を講師として招く。</p> <p>○外国籍児童については、本人にあった方法の支援の仕方を考えていく。</p>	
信頼される開かれた学校	危機管理	<p>□保護者・地域アンケート「学校は安全安心な学校づくりに努めている」95%</p> <p>□児童アンケート「地震・津波、火災の時、避難する方法を知っている」100%</p>	<p>□保護者・地域ア「学校は安全安心な学校づくりに努めている」保護者91.8% 地域93.3%</p> <p>□児童ア「地震・津波、火災の時、避難する方法を知っている」91.7%</p> <p>◆今年度も地域と連携した避難訓練(津波)を実施することができたが、いざという時に備えられるように繰り返し指導する必要がある。</p> <p>◆月1回の一斉下校を実施することができなかった。</p>	<p>○引き続き保護者、地域と連携した取り組みを進めたい。</p> <p>■防災ノートを活用した学習に取り組む。</p>	<p>□保護者・地域ア「学校は安全安心な学校づくりに努めている」保護者90.4% 地域83.3%</p> <p>□児童ア「地震・津波、火災の時、避難する方法を知っている」89.6%</p> <p>◇年3回の避難訓練が実施できた。</p> <p>◇引渡訓練が実施できた。</p> <p>◆慣れによって訓練への意識が低下してきている。</p> <p>◆登下校のマナーが悪い。</p>	<p>集団登校がないため、2列になって並ぶという意識が低い。</p>	<p>○下校を見守る週を設ける。</p> <p>○防災教育を徹底する。</p> <p>○登下校の状況を、保護者や地域に発信し、地域ぐるみでマナーを向上させる。</p>	生指	
	学校支援ボランティア活用	<p>□学習支援ボランティア(35人/週)</p>	<p>○読み聞かせ、学習ボランティアの人数は増えた。</p> <p>◆学習ボランティアとの連絡調整がうまくいかず、迷惑をかけることがあった。</p>	<p>○学校とボランティアのニーズが一致して、協働できるよう、しっかりとした連絡調整ができるよう、コーディネーターの組織化を模索していく必要がある。</p> <p>○各学級、各学年の取り組みを知ってもらうためにも、保護者を対象に、気軽な見守りボランティアやお手伝いボランティアを募集することも有効である。</p>	<p>□読み聞かせボランティア(14人→20人) □図書館ボランティア(2人→5人)</p> <p>□学習ボランティア(7人→13人)</p> <p>◇2学期よりコーディネーターを位置づけたことにより、各ボランティアとの連絡調整がスムーズになった。コーディネーターによる募集や声かけもあり、ボランティアの人数を増やすことができた。</p> <p>◆ボランティア見学会を開催したが、参加者は少なかった。時期、方法等に工夫が必要である。</p> <p>◆登下校の見守りボランティアを増やすことが難しい。</p> <p>◆学校側にもコーディネーターを位置づけると、より調整が回りやすくなると思われるが、人員、時間の確保が難しい。</p>	<p>登下校や青パトの見守りボランティアを増やす必要がある。しかし集団登校がなく、児童がばらばらに登校するため、立つ時間が長時間に及ぶ。そのため依頼しにくい。</p>	<p>○可能であるなら、ボランティア見学会は、授業参観等を活用する。</p> <p>○公民館、自治会、民生委員等の組織とも連携を図り、見守りボランティアの呼びかけを実施する。</p> <p>○コーディネーターを窓口にした連絡調整を教職員の意識の中に根付かせる。</p>	運営協議会	
	地域との連携	<p>①学校評価アンケート内容を再考します(行動計画の成果を評価する)。</p> <p>②土曜授業の3限目に保護者向け講座を開きます。③三者が協働する課題別チーム会議を開催します。(8月)</p>		◇学校運営協議会として研修会を開催することで、学校、保護者、地域が語り合う機会を設定することができた。	<p>○連携が負担にならないように留意しつつ、今後も保護者、地域とともに学校づくりを進めていきたい。</p> <p>○職員室、学校を訪れる保護者、地域のみなさん、関係機関の方々積極的にあいさつをする姿勢がさらに必要である。</p>	<p>◇実態に即して、児童アンケートの内容を見直すことができた。</p> <p>◇中学校区の事業を活用し、大学教授を講師に招いて、子育て講座を2回開催することができた。</p> <p>○職員室ではっきりとあいさつする教職員が増えている。</p> <p>◆地域と連携する取り組みは、他の行事や予定に配慮し、計画的にすすめないと多忙感、負担感が残る。</p>	<p>○地域の中には、子どもたちと触れ合えることを楽しみにしている方も多く存在する。計画的な実施に配慮するとともに、地域と学校双方のニーズに応じた内容に見直す必要がある。</p> <p>○子育て講座は、児童の実態に即した課題を設定し、継続して取り組みたい。</p>	運営協議会	
生き生きとした職場づくり	<p>①勤務時間縮減に向けた会議を設置し、少しずつでも実行に結び付けていきます。</p> <p>②月1回の定時退勤デーを設定します。</p> <p>③組織的な対応と、業務の標準化を図ります。</p> <p>④「一人で抱え込まない」とまとまりのある職員集団をつくりまします。</p>		<p>◆月1回の定時退校デーが実施できているが、日常の多忙さから、超過勤務の解消が進まない現状にある。</p> <p>◇周りの職員の仕事の状況や、困り感にも気を配り、適切な協力や声かけを行うムードがある。</p>	<p>○身体と心の健康をお互いが注意することで、早めに帰る声かけを職員間で行う。</p> <p>○引き続き、子どもの話や教材の話題が飛び交い、みんなが笑顔で働くことのできる雰囲気意識して作っていくことで、忙しさや困難なことなどに立ち向かうことができる職場にしていきたい。</p> <p>■あゆみ、指導要録の電子データ化の実施。</p>	<p>◇定時退校デーに設定した日は、早めに仕事を切り上げて帰宅しようとする意識が定着しつつある。</p> <p>◇あゆみ、指導要録の電子化を研修部が中心になって導入することができた。</p> <p>◆毎月の一人当たりの平均時間外勤務は20時間を超えている。</p> <p>◆長期休業中以外に土曜授業の振替日を設定しにくい。</p>	<p>○教職員が、心身の健康障がいにつながるリスクが高くなる月45時間以上の時間外労働をした場合、教職員に過重労働になっているという意識を明確に持たせる。</p> <p>○誕生日、結婚記念日、家族の記念日等のメモリアルデーにおける年次有給休暇取得の啓発を行う。</p> <p>○業務効率化を図り、ゆとりを持って子どもたち向き合う時間を確保していきたいが、現実には厳しい。忙しさや困難なこと立ち向かい、協力・協働できる職員室になるよう、対話等のコミュニケーションを大切にしたい。</p>	全員		